

■12月10~11日に高知県で開催された多機関合同訓練に参加しました

昨年度に引き続き、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン(以下PWJ)が運営する 空飛ぶ捜索医療団 "ARROWS" 主催による「2022年度 多機関連携災害時医療救助訓練」(高知県安芸郡)に参加して参りました。

PEADからは(PEADメンバー:須田メンバー、遠藤メンバー、ボランティア:富永、松本、事務局:岡田、眞貴田)6名が訓練に参加しました。



今回は、①連携協定を結ぶPWJ主催の訓練に参加することで、現場やロジスティックスの連携力を強化すること。②経験豊富なPWJを中心とする災害支援機関の高いレベルでの災害訓練を経験することで、人数が増えつつあるPEADボランティアを導けるリーダー人材を高度に育成すること。を目的として参加しました。

この訓練は、南海トラフ巨大地震発生を想定し、発災4日後の被害甚大な高知県安芸郡田野町二十三士公園にフィールドホスピタルの立ち上げを行う、という屋外での訓練でした。



本団体からは、

- ・炊き出し (初日の夕食、翌日の朝食と昼食、オブザーバー含めた130名分)
  - ・サウナテント(2日間)
  - ・浄水器(キッツ社提供、川の水を浄水し、生活水として使用できる)
  - ・ロジスティックス支援
- を提供しました。

約130名分の炊き出し(カレーライス、おにぎり、豚汁)は安定の高い評価をいただき、参加者の皆様に大変喜んでいただきました。また、当日の現地の気温は予想よりも暖かでしたが、医師を含む40名の方にサウナテントを体験していただき高評価を得ました。

災害時の緊迫した状況下では目前の救助に集中してしまい、意識しないと休憩できず、負荷は援助する側の心身にかかってきます。「休憩も仕事」として、温かい食事と、リフレッシュできるサウナテントの提供の重要性について改めて認識評価をいただきました。

6名で参加したため担当分けをすることで、ロジスティックス部隊に支援も経験できました。本部や看護師などの指示を仰ぎ、各所のサポートとして、参加者それぞれが率先してロジスティックス支援(医療什器の設置作業や現場設営)に取り組みました。

作業中や空き時間には、ベテランの参加者(元自衛隊や警察官)や地元の方と交流することができ、今年の災害現場についての情報共有や、地元の方のご意見を伺う貴重な機会となり、有意義な時間を過ごすことができました。

一方で、炊き出しのアレルギー管理表示の用意や、大人数の炊き出しの際の飲食人数と提供数の把握という課題が見えました。

今回の訓練では、フィールドホスピタル独自のネットワーク環境についてのテスト実施ができ、スターリンクも活用できたため、ITに強みのあるPEADに期待される提供ツールとして、「災害支援現場のスタッフ間での情報共有システム」が検討できるのではないかと感じました。





